



日本赤十字社

Onoda Red Cross

小野田赤十字病院広報誌

令和3年

第3号 Vol.280



辞令交付式(2021.4.1撮影)

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

病院理念

私たちは、気配りの行き届いた医療を実践し、
みなさまの健康と尊厳をお守りします。

基本方針

- (1) 患者さんならびに職員の生きがいを尊重し、権利を擁護します。
- (2) 患者さんのプライバシー保護に努めます。
- (3) 高齢・認知症・難病等の患者さんに配慮致します。
- (4) 医療社会事業を通じて、みなさまの健康づくりを支援します。
- (5) 「健診・救急・高齢者医療」を三本柱とし、地域の「保健・医療・福祉機関」との連携を推進します。
- (6) 医療の質の向上と安全管理に努め、全人的医療をめざします。
- (7) 医療記録を適正に管理し、規定にしたがって開示致します。

<http://www.onoda-redcross-hosp.jp>



新院長就任のご挨拶

院長 佐藤 智充



平素より日本赤十字社の活動に対してご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

私こと

この度、清水良一 前院長の後任として令和3年4月1日より小野田赤十字病院の病院長ならびに併設の介護老人保健施設あんじゅの所長に就任いたしましたので、一言ご挨拶申し上げます。

日本赤十字社は1877年(明治10年)に西南戦争をきっかけとした博愛社を前身として誕生し、その約10年後に、明治政府がジュネーブ条約に加入したことから現在の日本赤十字社に改名されました。戦争による負傷者を敵味方なく救護する戦時救護から始まり、その後の福島県磐梯山の噴火に対する救護(世界初の平時災害救護のはじまり)、その後も数多くの戦時または平時災害救護を行って参りました。

小野田赤十字病院も例外ではなく、災害救護班を常設し、私自身も東日本大震災・熊本地震・西日本豪雨災害の救護の任につきました。東日本大震災では荒廃した景色を目の当たりにすることで、私自身の中に災害医療の重要性を認識させる大きなインパクトを与えることとなり、その後 NBC(CBRNE)災害(核テロ・生物兵器テロ・化学テロ・放射線テロ・爆弾テロ)などのテロ災害を学び、また災害医療コーディネーターの資格も取得することとなりました。これからも日本赤十字社ならびに小野田赤十字病院は災害医療を続けて参りますので、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

この文章をお読みになっておられる方々にとって、日本赤十字社 小野田赤十字病院の「価値」とは何でしょうか。「価値」または「ブランド価値」とは(職員も含め)全ての皆様方が当院に寄せる信頼と期待の総和であると思っております。当院は医師の人数も少なく、本格的に急性期医療に取り組むマンパワーはありませんが、質の高い高齢者医療や慢性期医療や介護を提供することによって、地域包括ケアシステムの中核を担う医療機関として存在したいと思っております。

私が小野田赤十字病院に赴任して16年、副院長に就任して11年が経ちました。医療や介護を取り巻く環境は年々厳しさを増し、人口動態の変化や診療報酬・介護報酬の改訂、また周辺の医療機関などの外部環境も劇的に変化しつつある中で、医療機関、中でもとりわけ当院のような公的医療機関は「変化」するスピードが極めて遅いといわざるを得ません。ダーウィンの進化論の中に、「強いものや賢いものが生き残るのではなく、変化するもののみが生き残るのである」と書かれています。私たちは破壊と創造を繰り返しながら、常にあらゆる事項の改善に取り組み、組織のガバナンスのあり方を根本から変え、社会課題を解決すると共に地域のニーズを捉え、多くの住民が必要とする良質のサービスを提供し続けなければなりません。

企業は誰のものでしょうか。2000年代半ばに、株式会社に関して「株主のものである」と答えて、一躍有名になった投資家が居ましたし、確かに商法(会社法)上はその通りなのですが、当院は株式会社ではありません。むしろ、「企業は誰のものか?」という所有物としてではなく、「誰のためのものか?」を考える方が良いかもしれません。それでは小野田赤十字病院は誰のもの、または誰のためのものでしょうか。当然のことながら病院長の(ための)ものではありません。小野田赤十字病院は患者さんやそのご家族は勿論のこと、地域の医師会を始め全ての医療・介護事業所、製薬メーカーや診療材料のメーカー、さらに職員一人一人やそのご家族など当院に関わる全ての人々のものであり、いわば「公共財」であるわけです。それら全ての人々をステークホルダー(利害関係者)と表現します。まずは職員が働いて楽しいと思える病院を作り、それがその他のステークホルダーに良好な影響を与え、患者さんやそのご家族の満足度にも繋がり、その結果として最終的に経営面にも好影響を生み出すようなマネジメントが必要です。そのような病院が出来てこそ初めて、持続可能な医療機関になるものと考えており、今後早急にこれらのご取り組みでいきたいと思っておりますので、多くの皆様方のご協力をお願い申し上げます。

やや内向きな挨拶文となりましたが、今後とも地域全体で当院を育てて頂けますようお願い申し上げます。

最後に、昨今の新型コロナウイルス感染症に関して、多くの皆様が不安を感じていることと思われま。当院も院内・施設内クラスターの発生の予防に努め、幸い現在まで施設内での発生は1例もありません。面会制限などの措置により大切なご家族にお会い出来ない辛さを十分に理解しておりますが、今後もしばらくは何卒ご理解・ご協力いただけますようお願い申し上げます。



院長退任のご挨拶



清水 良一

地域の皆さま方におかれましては、新型コロナウイルス禍の終息の目途が立たない中、昨年度は入院患者さんへの面会制限等にご理解を賜り、心より御礼申し上げます。本年度中にはワクチンの接種が全国民に浸透し、行動制限の解かれる日が早く訪れますことを皆様と一緒に祈りたいと存じます。

さて、私ことこの度、令和3年3月末をもって、小野田赤十字病院を退職することになりましたので本紙面をお借りして、お知らせ申し上げます。

第6代院長として、平成29年(2017年)4月に当院へ着任して以来4年間の短い在職期間ではありましたが、私に課せられました使命を少しは果たせたものと、安堵しております。

私が着任した当初の平成29年6月時点で、山口県全体の若い医師不足等により、当院も既に夜間や休日を含めた急性期医療を担う上で公的病院としての役割を十分に果たせなくなっていました。

予想通り、少子高齢化社会が進み人口減少も顕在化する中で国の進める地域医療構想において、令和元年(2019年)の秋に公立・公的病院の統合・再編の対象となる施設(当初、全国で424病院)が公表された際、当院も含まれていたことは皆さまの記憶にも新しいことと存じます。

ここでいう統合・再編とは病院がなくなるという意味ではなく、ダウンサイジングを行いつつ急性期医療を行う施設と、回復期から慢性期および在宅医療を行う施設の地域での役割分担を明確にし、それぞれの病院が、地域包括ケアシステムの一翼を担う中核病院へと機能転換を推し進めることを意味します。

当院の場合、私に課せられた使命は在宅復帰を目指す患者さんを急性期病院から引き継ぎ、回復期医療を担う地域包括ケア病棟を充実させ、また、在宅復帰後の患者さんを継続して支援するための訪問看護ステーションを開設することにあります。また、以前より稼働していました慢性期病棟に関しても、その一部を介護保険制度で運用する介護医療院(特別養護老人ホームに医師が常駐しているイメージ)に転換することで、この地域に過剰とされた慢性期病棟の病床をダウンサイジングすることも求められました。

今後、介護医療院を現在の12床から60床に増床することと、老人保健施設に関しては現在100床から40床へとダウンサイジングし、本来の中間施設としての役割をしっかりと発揮できる体制へ機能転換することを計画しております。また、訪問看護ステーションを一昨年6月に開設しましたが、現在は専従の看護師3名体制で地域に貢献しています。

最後に、私に課せられた使命を曲がりなりにも果たせましたのは、看護部をはじめ優秀なスタッフの努力の賜物であったことを申し添えておきます。とりわけ、この3月に私と一緒に退任します黒瀬邦彦事務部長が補佐役として行政との交渉で、その手腕をいかんなく発揮していただけたことには感謝の言葉しかありません。有難うございました。このような素晴らしい仲間がいて昨年6月の病院機能評価の認定にも繋がったことを誇りに思っています。今後は、佐藤智充医師が副院長から新院長に昇格し、引き続き皆様に信頼される病院へとさらに発展させてくれるものと信じております。私同様ご厚誼を賜りますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。

令和3年3月31日





「一日赤十字と看護の日」イベント 中止のお知らせ

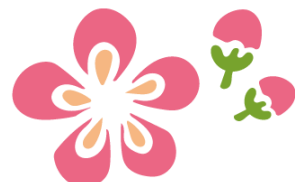
例年、5月におのだサンパークで開催しておりました「一日赤十字と看護の日」イベントは、新型コロナウイルス感染症対策に鑑み、開催を中止といたします。イベントを楽しみにしていただいた皆様には多大なご迷惑をおかけいたします事を心より深くお詫び申し上げます。



院内保育園きらら通信



3月4日(木)、院内保育園の子どもたちが、先生と一緒にケーキを作ったりして、ひなまつりを楽しみました。フルーツたっぷりのケーキが美味しそうですね。子どもたちの笑顔が可愛くて、とても癒されます。



外来診療担当医表

4月



全診療科 受付時間 8:30~11:30 とさせていただきます。

※ 一部例外もございますので、ご不明の点はお電話にてお問合せください。

※ 都合で交代・休診することがあります。ご了承ください。

※ 午後診療(内科・外科)は予約診療および急患対応といたします。

★2021年4月から、医師と曜日が変わっていますのでご注意ください。



曜日		月	火	水	木	金
診療科(受付時間)	1診	藤井 翔平	岡田 治彦	※予約制 徳永 良洋 8:30~15:30	西川 潤	岡田 治彦
	2診	根本 壊 【脳神経内科】	島袋 明子	和田 一成 第1水曜日のみ	野垣 宏 【脳神経内科】	野垣 宏 【脳神経内科】
				佐藤 智充 第2~5水曜日		
	3診				兼行 恵太	
外科		水田 英司	為佐 路子		佐藤 智充	中尾 光宏
眼科			萩田 勝彦			萩田 勝彦
整形外科						富永 俊克
脳神経内科		根本 壊			野垣 宏	野垣 宏
皮膚科						下村 尚子
女性スタッフによる 乳がん検診			為佐 路子 ※予約制(女性放射線技師による撮影) ※女性医師・技師が不在の場合もありますので、事前のご予約をお願いいたします。			

診療等に関する
お問い合わせ

TEL:0836-88-0221(代表)

FAX:0836-88-0405(平日 8:30~17:00)、0836-88-2733(夜間・休日)



内科

医師:佐藤 智充 医師
診療日:第2~4水曜日
受付時間:8:30~11:30

内科

医師:兼行 恵太 医師
診療日:毎週木曜日
受付時間:8:30~11:30

脳神経内科

医師:根本 壊 医師
診療日:毎週月曜日
受付時間:8:30~11:30



よろしくお祈りします!

ご面会にお越しの方へ

当院では3月22日(月)から、
下記の通り面会の制限を一部緩和いたします。

面会可能時間

平日 15時～19時

入室者 2名まで(5分程度)

受付 場所

平日の15時～17時…病棟スタッフステーション

17時～19時…夜間出入口



土日・祝日の面会は、
禁止とさせていただきます。

※ 病院から面会をお願いしたご家族は、上記の限りではありません。

看護師の指示に従い、必要最低限の面会をお願いします。

⇒ **面会の際には、各病棟のスタッフにお声がけください。**

※ 洗濯物の交換は、ご面会の際に行っていただければと思います。

※ 地域の感染状況によって変更されることがございますので、最新の情報は
当院ホームページで、ご確認ください。

★ 発熱のないことと、マスクの着用は必須の条件となります。

正面玄関で検温をして、ご協力をお願いいたします。

ORC (オー・アール・シー) 令和3年第3号

令和3年 4月 1日 発行

発行所 山陽小野田市大字小野田3700

小野田赤十字病院

(TEL 0836-88-0221)

発行人 院長 佐藤 智 充